

“学びの森”だより

令和3年度
10月号
10月4日発行

研修を止めない

2学期がスタートするにあたって、静岡県も新型コロナウイルス感染が広がり、今までにない危機的状況になりました。緊急事態宣言も出され、世の中全体がますます安心安全を求めた対応に迫られてきました。10月になりかなり収束しても、いつ第6波が来るのか分からず、不安な状況はまだまだ続きます。しかし、こんな状況の中でも、未来を担う子供たちの学びを保証することは大事なことです。コロナ禍であっても、質の高い授業を目指すことは欠かせません。

そこで、研修を止めないためにも、何ができるのか、できることを試してみたいと、リモートによる研修（授業前研修・参観授業・事後懇談）を試みました。

メリット

①感染防止

直接関わることがないため、接触がなく、お互いに感染防止になり安心安全が確保できます。

②時間の有効利用

いつでも、どこにいても、ICT端末がセッティングできる環境ならば、お互いに移動時間がなく、時間を有効的に使えます。

③機能的

仕組みになれてくると、資料（データ、写真、動画等）の提示や交換といったやりとりが、スムーズにできます。また、クラウドを使うことにより、手軽に保存ができ、事後に役立てることが出来ます。

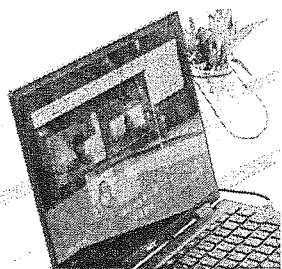
デメリット

①リアル感が伝わりにくい

リモートでは、空気感がなく、相手の感情を肌で感じる事ができません。特に関わりを大切にしている授業を進めるときには、感情も大切な要素です。直接関わる授業には、大切な価値があります。

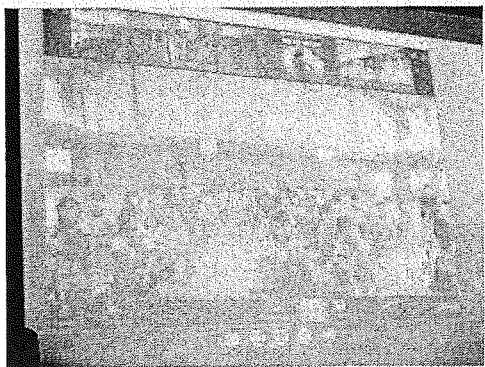
②声が拾いにくい

1対1対応の時はいいのですが、授業の中には、さりげないつぶやきや表情があります。そして、そのつぶやきや表情には、大きな価値があります。マイクでは、それらすべてを拾うことはできません。特に、班活動の場面では、限りがあります。



リモートによる研修をやってみて、既成概念を見直す機会となり、便利なものは便利だと感じました。しかし、関わりを大切にしている授業においては、直接関わることが、いかに大切であるかを痛感しました。何事もメリットとデメリットはありますが、コロナ禍において安心安全は第一です。したがって、その中で何が出来るか、いろいろチャレンジしながら、持続可能な研修を目指し、工夫しながら、子供たちのために尽力してまいります。

できないではなく、なにができるか



9月に開催された、5校参加の「トヨタ
オンライン交通安全教室」の様子

裾野市には、大きな企業がたくさんあり、学校教育の中でも、多くの協力をいただいています。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、密にならないことを考えると、関わりが持てない状況があります。残念ですが、安心安全を考えると致し方ないことだとあきらめていました。

そんな折、トヨタ自動車の担当者の方から、思わぬ言葉がありました。「オンラインでやりませんか。」でした。「できるんですか、本当に。」と答えると、「できないではなく、なにができるか、そう思って考えてみました。」あきらめない心と、すばらしい行動力、なによりも、子供たちのために、なんとかしたいという温かさに胸が打たれました。さてさて、そうはいつでも、どうやってやるかです。

では、二つの事例を紹介します。

①研究所に潜入

5年生の社会科で、自動車工場と研究所を見学していましたが、できなくなりました。そこで、普通ではあり得ない、潜入ルポです。研究所のスタッフの方がルポライター役となり、実際の研究所の施設を紹介します。「さあ、潜入しますよ。」ときどきしてきます。学校にいる子供たちは、画面に釘付けとなります。それもそのはず、普通見られない狭い場所にも潜入するのですから。そして、リアルタイムで研究者の方に、質問するのです。まさに、オンラインの醍醐味です。

「その機械は何ですか?」「それは、排気ガスを調べる機械です。」「動かしてみましようか?」わくわくと同時に、それを見せてもいいのか心配もしました。しかし、子供たちはそんなことにはお構いなしです。楽しいのです。どんどん質問がでます。「その数字は?」研究者の方々が、お互いに目をやり、困っているのが伝わってきます。秘密に触れた瞬間でした。すかさず、司会の担当者が「ごめんなさいね。そこはちょっと。」とフォローしました。リアル感満載でした。それにしても、よくそここまでやってくださいました。直接の見学もいいのですが、オンラインで結ぶ見学もまた、いいものだと感じました。

②交通安全教室

低学年の交通安全教室です。「命はかけがえのないもの」であるからこそ、コロナ禍であっても、交通安全教室を実施したい。この思いを受け、トヨタ自動車さんが、一肌脱いでくださいました。その一つの方法がオンラインによる5校同時の交通安全教室でした。これはいけると感じたのは、ドライバーからの視点を通して体感できたことでした。「では、カメラを運転席に移してみますね。」とあって、画面が切り替わりました。見ていた子供たちは「えっ、運転席から横断する人が見えない。」とつぶやきます。さらに、司会の方が、「もう一度見せてあげてください。」とドライバーに伝え、再確認しました。機転の利いた司会者と、カメラワークに、オンラインの良さを実感できました。大切なのは、コロナだからできないのではなく、何ができるか、そしてやってみることでした。準備は大変ですが、すばらしい授業ができました。協力していただいた方々に感謝です。ありがとうございました。

(文責：松山充彦指導員)

発行：裾野市教育委員会

〒410-1192 裾野市佐野 1059 番地

TEL：055-992-1111

FAX：055-995-1866

編集：学びの森

〒410-1102 裾野市深良 435 番地

TEL：055-995-4903

FAX：055-995-4904

<http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/data/2240002>